

# 研究の概要と今年度の研究

平成29年4月11日（火）

石中社研究員 鎌田 基

（千歳市立勇舞中学校）

## I. 研究主題

### 未来をきり拓く力をつけた子どもの育成

～思考・判断・表現の力を高める課題の設定と教具の工夫を通して～

## II. 研究仮説

思考・判断・表現の力を高める適切な課題を設定し、指導内容や学習活動に応じて工夫した教具を用いる授業を展開することで、主体性や論理的思考力、コミュニケーション力などの「未来をきり拓く力」を育成することができる。

## III. 今年度の研究について

### 2年次 表現力を高める課題の設定と教具の工夫

今年度の石中社部会員

全員の取り組みとして…

- ①「表現力を高めるための教師側の工夫」を盛り込んだ授業を実践。  
～効果的な切り口やアプローチには、どのようなものがあるか。  
多様化する教具を、どう効果的に活用するか。
- ②第二次研究協議会時（10月13日）に、実践例をまとめたレポートの交流をする。  
～提出レポートは、今年度も指導案形式にはこだわりません。

#### ＝第二次研究協議会の授業について＝

今年度の第二次研究協議会は、恵庭市で開催されます。研究の重点を踏まえ、表現力を高めるための「教師側の切り口やアプローチの工夫」「教具の工夫」を盛り込んだ授業の公開をお願いします。

指導案の形式については、夏休み前にHPにて提示させていただきます。

## 【今年度の研究イメージ】



### 「表現力」のおさえ

- 社会事象や事実、概念などを他者にわかりやすく説明したり、伝達したりする力。
- 調査したことや分析したことなどを自分の言葉で論述する力。
- ポスターやプレゼン資料等を活用し、自らの考えを発表したり、交流したりすることで互いの考えを伝え合う力。

毎時間の授業を通して目標を達成するためには、冒頭の学習課題が適切かつ明確であることも必要ですが、生徒たちが思考・判断・表現を重ねながら課題解決に取り組む中で、それらの力を活用し、高めるための効果的な切り口や段階的なアプローチも重要です。本研究における「課題設定の工夫」とは、そうした展開途中での段階的な「投げかけの工夫」です。

また、教具の工夫について、石中社では、学習素材や内容、それを示した諸資料など、情動的なものを「教材」と定義します。一方、教材を効果的に習得させるために使用する道具や機器など、物的なものを「教具」と定義します。従って、黒板（電子黒板）、書画カメラ、パソコン、掛図、地球儀、マグネットシート、マーカーペン、実物資料などが「教具」にあたります。なお、生徒が所持・使用する教科書、資料集、地図帳などについても、今回の研究では「教具」として扱うこととします。

研究計画の詳細については、『石教研』（2017. 3. 3 No. 376）の「社会（中）部会研究計画」（p 19～p 22）をご覧ください。

また、石中社ホームページでも、様々な情報を提供してまいりますので、是非ご活用ください。

石中社 (<http://www.sekikyoken.com/bukaiHP/s04/s04index.htm>)

今年度も、宜しくお願いいたします！